

新潟県

公民館月報 4

平成11年4月号 通巻第554号



表紙 「灯り」
(川口町公民館)

特集 公民館運営審議会答申の紹介(柏崎市)

視 点 「学社融合」を考える

ひろば 悠々白通と学習課題

サークル交流 きんもくせい(新井市公民館)

サンコーラス(与板町公民館)

素顔拝見 海津智彰さん(新発田市)

高橋徳直さん(加治川村)

第50回県公民館大会開催要項案でできる

『社会の変化に対応した

公民館の在り方を考える』をテーマに

県生涯学習フェスティバルが七月末開催という関係で、当会50回大会も昨年より八日余り繰り上がって七月八日(木)開催となった。今回、その開催要項案ができて上がったので、ここに紹介したい。

大会事務局は大和町公民館に置き、大会会場は六日町文化会

館での開催となった。大会内容は、生涯学習審議会の答申に沿う形で、「社会の変化に対応した公民館の在り方を考える」をテーマに掲げ、中でも地域の宝といわれる青少年の育成に目を向け、中越管内三町から実践事例を発表してもらい、討議を深める予定としている。

また記念講演講師としては、第3期新潟県生涯学習審議会議長として、「地域社会における生涯学習振興のための取組」の答申を出され、国の生涯学習審議会

の答申内容にも詳しく、高い専門的な見識をお持ちの新潟大学教授齋藤勉先生をお招きし、お話し

ていただく予定としている。先生は、飾り気ないお人柄で具体的な事例に基づいた、ユーモア溢れるお話がお聴きできさうである。

南魚六日町は交通至便の地なので、現地主管事務局では多数の参加を望んでいる。

なお、主管公連の南魚沼郡公連では、四月早々から総力を結集して大会準備に入る予定である、と聞いている。

第50回新潟県公民館大会開催要項(案) 兼第47回中越地区公民館研究大会開催要項(案)

◇人会テーマ
-社会の変化に対応した公民館の在り方を考える-
~新しい時代の青少年教育の充実を目指した公民館活動~

1. 趣 旨 新潟県公民館大会50回の節目の年を迎え、これまでの県公民館大会の歩みを振り返りますと、いつの時代においても厳しい条件にありました。しかし、我々公民館関係者は、その時々の変化する社会の要請に応えるために、大会主題を設定し、県下各地より集まり、研鑽に励み、地域の人々の暮らしと学習に大きな役割を果たしてきました。

社会教育行政創設以来、50年近くを迎えるようになっている中、激しく変化する社会の新たな状況に対応した社会教育行政を進めるために、昨年9月に生涯学習審議会より、「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」の答申がなされました。その中で、「青少年に対する社会教育の責任は、一層重要なものとなっている」と指摘されており、これら地域社会や家庭の変化に対して行政の効果的な推進対応が求められています。

また、地域の宝といわれる子どもたちの育成は、まさに、人づくり、地域づくりに関わっていくものと考えます。このためには、2003年からの学校5割完全実施も視野に入れ、家庭・学校・地域社会が連携し、バランスのとれた教育の推進を図って行かなければなりません。

本大会では、以上のようなことをふまえて、新しい時代の青少年教育の充実に向けて、これからの公民館が、どのような役割を果たすべきなのかを研究協議して、公民館活動の一層の充実発展に役立てようとするものであります。

2. 主 催 新潟県公民館連合会 中越地区公民館連絡協議会
3. 共 催 新潟県教育委員会 新潟県公民館振興市町村長連盟
南魚沼郡教育委員会連絡協議会
4. 主 管 大和町公民館 六日町公民館 南魚沼郡公民館連合会
5. 後 援 省庁
6. 日 時 平成11年7月8日(木) 午前9時30分 開会
7. 会 場 六日町文化会館
〒949-6623 南魚沼郡六日町大字六日町965
電話 0257-73-6510 Fax 0257-72-861
公民館関係者・社会教育関係者・学校教職員等

8. 参加者 公民館関係者・社会教育関係者・学校教職員等

9. 日 程

9:00	9:30	10:00	11:50	12:50	13:10	14:40
受付	開会式	実践発表	昼食	郷土芸能発表	記念講演	閉会式

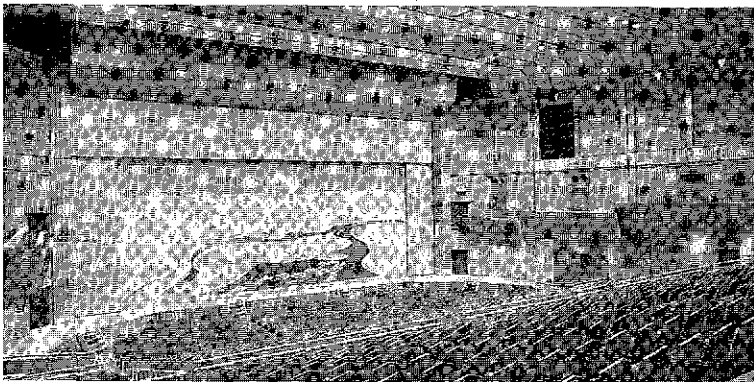
10. 実践発表
- テーマ「新しい時代の青少年教育の充実を目指した公民館活動」
- 事例1 (家庭教育事業の実践から) 堀之内町
事例2 (青少年事業の実践から) 小国町
事例3 (学社連携・融合推進の実践から) 津南町
- 発表者 発表タイトル 不定 浅沼敏男様
司会者 小出町公民館長
助言者 前新潟県社会教育協会副会長 桑原昭三様

11. 記念講演
- 演題 未定
[内容: これからの公民館の在り方~生涯学習審議会の答申から~青少年教育の今後の方向も含め]
講師 新潟大学 教授 齋藤 勉様

12. 参加費 2,000円(資料代等)

13. 参加申込 参加者は所定の申込書により、市町村ごとに取りまとめの上、所定の期日までに大会事務局へ申し込んでください。(FAXでも可)
- 詳細は、要項の市町村発送までに決定。

14. 大会事務局 〒949-7302 南魚沼郡大和町大字浦佐5175-1 大和町公民館内
第50回新潟県公民館大会実行委員会事務局
電話 0257-77-4871 FAX 0257-77-5116



六日町文化会館大ホール

◆新任公民館職員におすすめするハンドブック

公民館経営の手引 第1集・第2集

公民館運営審議会委員の手引

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

前横浜国立大学教授 吉川 弘著

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円

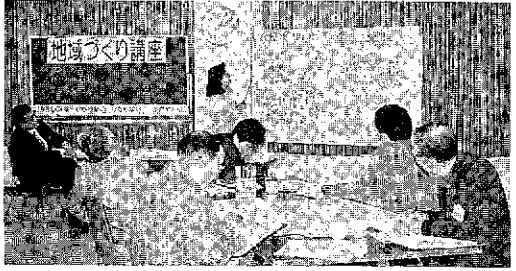
申込先 ☎951-8053 新潟市川端町2-1-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 ☎・FAX025-224-6073

B5版 62ページ
各500円(送料実費)

B5版 62ページ
500円(送料実費)

B5版 14ページ
500円(送料実費)

柏崎市からの発信!! 地域づくり講座 平.11.3 柏崎市柏崎公民館(品田尚道記)



「公民館の敷居が高いのではないだろうか、一部の人や一部の層のみの参加である、行政任せが多いのではないか、町内会など保守性が強く住民が主役にならない」、なぜ地域づくりが進まないのか、この講座生の主な意見であった。しかし、根本的な原因はもっと別の所に存在していると思われる。

住民が地域の課題をとらえ、どのようにして取り組み、解決に向けた学習を展開していったらよいのかという構図の学習を公民館が実施しているのが、

今問われているのである。それ故の、今回の講座であった。

第一回目は、地域づくりの基本理念や住民主役の原則、地域づくりの手法などを学習。

二回目は、地域や生活の課題をどのようにとらえ、整理していくか。そして例示課題について、グループワークキングで課題解決法を研究。

三回目は、手作りによる「潟まつり」を実施した豊栄市のお祭りさわぎ実行委員会の取り組みと活動秘話をお聞きし、これからの地域活動への参考に。

視点

学社融合に地域も巻き込んで真剣に取り組んでいる学校の一つに千葉県習志野市立秋津小学校があります。しかし、この学校と関わっている人たちに言わせると、ただの学社融合ではないそうです。

「かろやかな学社融合」です。それは、「無理をしない」でできる人ができるときに「を」をモチベーションとしているからだと思います。もちろん、ここに至るまでには相当の時間を要した

「学社融合」を考える

大島 一英

し、様々な課題や衝突があったようですが、それを常に前向きに捉えていたからこそ成しえたとも言えるのでしよう。

これを別の言葉で言

つまり、考えや方策が一方的でないのです。双方向なのです。これぞ「学社融合」の考え方ではないでしょうか。私は、「学社融合」を語るべき、このこと

悠々自適と学習課題

両津市公民館運営審議会委員 齋藤 進



死語化してから久しいものの一つに、期待される人

置かれた位置付けを十分わきまえて、第四は絶えず自分を高め、第五は自分が出発点を十分に実践して、第六は人間としての感性を持って自然を大切にしながら生きていきたい、というのがメッセージであるという。サウイフモノニワタシハナリタイのである。

ひるば

最近聴いた講演会の中で、悠々自適の定義があった。いろいろな解釈やニュアンスがあり、人によって必ず目標があり、その目標に向かって、自分に一番適した速度(リズム)で努力していくことが真の意味である、という。

高齢者の必須重要課題として、福祉問題に関する事項がある。ボケない内に、寝たきりにならない内に、介護しやすい高齢者の学習である。

第一は感謝の心、第二は優しい笑顔、第三は少し体重を減らすことなどであろう。

なかなか難しいことであるが人間最後まで、出来る限り、ずっとという能動的な気持ちを持ち続けたいと思うこの頃である。

津南町教育委員会生涯学習課派遣社会教育主事

※プロフィール

第8回恵贈資料紹介、平成10年度「新風」にも掲載してあるのでご覧いただきたい。

会 在り方」

- (1)地区における高齢者学習の望ましい在り方
- (2)全市的事業としての高齢者学習の望ましい在り方



はじめに

高齢化が著しく進展する今日、いつまでも健康で、友人や仲間がいて孤独にならず、自分の得意な趣味や技能・特技などを生かして地域の様々な活動に参加し、その活動によって生きがいをつかみ、真の豊かさを実感できるような豊かな高齢社会の創出が生まれている。これに対処していくには、ただ単に高齢者固有の課題としてとらえるのではなく、壮年層も青少年層も自らの課題としてとらえることが求められてきている。また、高齢者施策の条件整備や啓発などは行政の仕事であるが、それを実践していくのは高齢者自身であり、ここに生涯学習の必要性が存在する。

柏崎市では生涯学習を、高齢者に限らずすべての人々が、自ら学びたいことを、自分なりの方法で、生涯を通じて自由に学習することととらえている。見たり、聞いたり、読んだり、体験することや、地域の行事に参加すること、スポーツ、ボランティア活動なども大切な学習であると市広報かしわざきを通じて表現している。

市の「生涯学習計画」には、高齢期の学習課題の一つに、地域と積極的に関わることを掲げられている。地域と積極的に関わるというところは、町内やコミュニティなどの諸行事・活動にできるだけ参加することや、地域文化の伝承、高齢者の持っている知恵や経験・技能などを地域社会の中で生かすことなどであり、これらが「地域で頼られる高齢者」「役に立つ高齢者」ということになるであろう。

町内やコミュニティなどの諸行事・活動に参加すること自体も生涯学習の一つであるが、公民館、コミュニティ、町内会などそれぞれが独自の活動を展開している例が少なくない。それは、地域としての生涯学習活動が方向性を持たないままに展開されていることにほかならない。

一方、日常の生活スタイルを考慮してみると、農業などの就業形態や地域を構成する人口規模などが中心部、近郊区、周辺部により大きく異なる。更に、地区の生い立ちや地域気質など、地域はそれぞれの個性を備えており、全市を画一的にとらえることは困難である。

こういふ状況を踏まえ、公民館、コミュニティ、町内会などがそれぞれバラバラに高齢者を対象にした活動を展開するのでなく、地域は一つという現実の中で地域の将来像を描き、地区民総参加の活動計画の中で、連携を密にしながらそれぞれの役割を負うことが求められている。これは、高齢者のみならず、すべての地区民の地域活動への参加を促進し、世代間交流、生涯学習の推進にもつながることになる。

これらを基本に据えた審議結果は、次のとおりである。

1 地区における高齢者学習の望ましい在り方

これを位置づけるには、地域の実状に応じた学習活動の展開が求められる。このため、

- ・地域の将来像の策定
- ・高齢者の学習・役割の啓発
- ・学習機会の充実

1 地域の将来像の策定

自分の住んでいる地域を、明るく、住みよい、個性豊かな地域にしたいということは住民共通の思いである。自分たちの地域のことは、自分たちの手でよくしていくことが基本であり、他の人がやってくれるわけではない。地域の将来像を明確にし、それに向けた活動を展開することが地域づくりとなり、地区民の生涯学習の推進につながる。

(1)地域活動の現状把握

地区内で行われているすべての活動を公民館、コミュニティ、町内会などが一致協力して、実施目的・参加対象・実施内容ごとに整理してみる

ことが求められる。これにより、参加を呼びかける対象が少ない事業、世代間交流の有無、事業内容の偏り、今後協力が必要と思われる事業などが網羅できると同時に、地区における生涯学習実施状況が明確に把握できる。

(2)地域課題の把握と整理

地域を住みよくしていくには、住み難くしている要因を拾い上げ、解決していくことである。地域課題とは地域における生活の課題であり、過疎化や新旧の住民融和などを始めとして、自然・生活環境、教育・文化、高齢・福祉、健康づくり、産業など多岐にわたる。これらを整理し、解決に当たることが求められる。

(3)課題解決のために

自分の地域の課題を解決するためには、地区民が自発的に、そして一体になって取り組む必要がある。

例えば、児童・生徒の通学路が暗いという課題があるとすれば、通勤者をもとより、そこを通る人すべてに同じこ



特集 公民館運営審議 「柏崎市の高齢者学習の について(答申)要旨

柏崎市公民館運営審議会

—平成10年11月—

とが言える。町内会として、PTAとして、交通安全協会などの共通課題である。また、その個所を発端として地区内全般を見渡すと、街灯に限らず、カーブミラー、一時停止、安全確認表示、通学路の除雪などや、その他子供の遊び場としての危険箇所がクローズアップされ、町内会はもとより、地域全般の課題ともなり得る。地域全般となれば、コミュニティとしての課題ともなるであろう。

これらに取り組むために、地域の課題を公民館の学習課題に位置づけ、地区民がどうしたらよいかを学ぶことや、市の出前講座で行政の専門的助言を受けることも可能である。言い換えると、地域の課題解決には町内会、コミュニティ、公民館がどのように連携して取り組んでいかなければならないのかを明確にする必要がある。

(4)地域の将来像実現のために住民の手による地域の長期的な活動計画を樹立し、それを受けて公民館・コミュニティの活動計画を立案し、町内会とも運動した地域づくりが望まれる。

地域の将来像を策定し、その実現を図るためにも、地域

の先輩たる高齢者の学習はますます重要となり、一人ひとりの学習意欲の醸成が望まれる。

2 高齢者の学習・役割を明確に周知し、一人ひとりが自己の問題として位置づける。

(1)生涯学習の住民周知
高齢者の学習内容は、当審議会委員の現状把握では趣味や娯楽などが総体的に多いという認識であった。高齢期の学習課題は、

- ①健康の保持・増進と安全に対する習慣や態度を養う。
- ②家庭や地域と積極的に関わり、趣味・特技を磨き、生きがいを創り出す。
- ③職業経験・生活経験を生きかき、職業人として再出発できる能力を養う。
- ④現代社会に適応する現代感覚・国際感覚を養う。

という市「生涯学習計画」の道しるべのとおりである。

趣味や娯楽ばかりが学習ではなく、町内やコミュニティなどの地域行事に参加することも学習の一つであり、高齢者の役割でもある。また、健康保持・増進と安全に努めることは、人間が生きていく上で最低条件でもある。そして、社会変化が急速に進展していく中で、例えば情報化と

いうことを全く知らないというのでは社会についていけない。などというようなことを高齢者だけでなく地区民に広く周知し、理解してもらう必要がある。公民館・コミュニティは前述の(1)地域活動の現状把握に照らし合わせ、①④の学習を推進していくことが求められる。

(2)住民参加の意欲を高める
「何をやるにしても参加者が少なく、参加者が限られている」という地区もあるが、それにはそれなりの要因があるはずである。その要因を的確に把握し、改善に努める必要がある。考えられる要因と対策は、次のようになる。

- ①事業内容が住民の求めるものに沿っているか
- ・住民の学習要求を的確に把握するよう努める。
- ②事業の周知が適切であるか
- ・お知らせなどの広報作成に工夫がなされているか。
- ・この事業はなぜ必要か、こういうことをこのように実施し、こういう点が役に立ったり、得をしたりするなど住民に分かりやすく紹介されているか。
- ・ただ単に全戸配布すればよいとするのではなく、目を通していただけない場面も想定してあるか。

- ③事業を単独で実施していいか
- ・事業を立案する際、内容によつては町内会、コミュニティなどの機関のほか、体育協会、老人クラブや団体・サークルなどと連携をとり、共同で実施する方法をとっているか。
- ・また、それら役員の役割分担がなされているか。
- ④事業開催者の参加員計画は立てられているか
- ・主催者としてこれだけは出席があるという、確実に、最低限の基準を立てているか。
- ⑤交通手段を配慮してあるか
- ・地域が広い場合、交通手段対策を講じてあるか。
- ・公民館・コミュニティセンターを固定会場にせず、町内集会所や公会堂へ向いて実施することも配慮されているか。
- ⑥参加者が主役になれるか
- ・主役は参加者である。公民館やコミュニティが主役になつていないか。
- ・参加者が主体的になれる配慮がなされているか。

3 学習機会の充実

趣味や娯楽の学習は、地域公民館の学級・講座として、

施されておらず、シルバー生
 きがい課委託事業「生きがい
 教室」の中で実施しているケ
 ースが多々見られる。しかし、
 一方では、コミュニティや公
 民館の自主サークル活動とし
 て、言うなれば、住民自らの
 生涯学習として自主的経費で
 活発に実施されていることが
 見受けられる。

また、公民館における年代
 に応じた学習機会の提供が望
 まれるが、予算の裏付けがな
 ければ実施できない。そうい
 う財政的背景の中で地区民全
 体の学習を見てみると、全世
 代が参加でき、世代間交流を
 図ることができ「○○地区
 ふれあい広場」を実施してい
 る地区が多いのが現状である。
 これらの現状を踏まえ、高齢
 者の学習機会を更に充実させ
 るためには、次の対策が求め
 られる。

- (1) 高齢者を対象にした事業費
 を地区に配分する。
- (2) 全市の事業としての高齢者
 教室を、地区公民館・コミュ
 ニティセンターや町内集會
 所を会場に開催する。
- (3) 公民館・コミュニティで、
 高齢者の持っている知恵、
 経験、技術などを生かせる
 場面をできるだけ用意し、
 高齢者の生きがいにつながる

るよう努める。
 (4) 市老連生きがい講座、シル
 バー人材センターなどの高
 齢者対象事業を、もっと広
 く、各世帯にまで届くよう
 に周知する。

II 全市の事業としての高 齢者学習の望ましい在り方

1 全市の事業の位置づけ

全市の事業とは柏崎公民館
 が実施する事業で、地区公民
 館が個々で実施するよりも合
 同で実施した方が効果がある
 と考えられるもの、または、
 地区ではできない大きな事業
 や特色のある事業とすべきで
 ある。

2 高齢者の学習・社会参加活 動推進事業の一元化

文部省は平成10年4月2日
 付けで、地域における高齢者
 の生きがいづくりのための学
 習活動や社会参加等を促進す
 るために、同省所管の「高齢
 者の学習・社会参加活動推進
 事業」と厚生省所管の「高齢
 者の生きがいと健康づくり総
 合促進事業」などと連携・協
 力を図り、極力一体的な実施
 に努め、学習内容が重ならない
 ように配慮するよう通知が
 あった。
 当市では、シルバー生きがい

い課の「生きがい教室」、柏崎
 公民館の「寿大学講座」で趣
 味の学習が内容的に重複して
 おり、一元化が望まれる。
 3 全市の事業に求められる学
 習内容

- (1) 地区で社会参加活動やボラ
 ンティア活動ができるよう
 な内容に関するもの



- (2) 高齢者の持っている知識・
 経験・技能の伝承活動の仕
 方に関するもの
- (3) 高齢者リーダー養成を目指
 したもの
- (4) 人材バンク設立を目指した
 もの
- (5) 高齢期を迎えるための準備
 学習

おわりに

高齢化が著しく進展する今日
 の高齢者像は一昔前とは異なり、
 現役バリバリというイメージの
 高齢者が多く見られる。新聞紙
 上では、60歳で定年になったが
 65〜70歳までは働く意欲を持っ
 ている高齢者が多数存在すると
 報道されたり、定年延長、年金
 支給年齢の引き上げなどが論じ
 られるような社会情勢である。
 地域の高齢者の動向を注視し
 てみると、60歳で定年になって
 も高齢者という意識を持たない
 し、70歳までは老人クラブには
 入りたくないという人も多い。
 また、高齢者は年々多くなって
 いるのに、市老連の会員数が減
 少しているという事実が如実に
 これらを物語っている。
 高齢者を年齢でとらえるな
 ら、60歳代の前期と70歳以上の
 後期などとしてとらえる必要が
 あるのではないか。そして、意
 識も学習内容も異なるのではな
 いだろうか。また、前述の「老
 人クラブ」という呼称も、今日
 では適切な表現ではなくなっ
 てはいないだろうか。こうい
 う面から、高齢社会の構築はな
 お研究が続けられなければならない。
 終わりに、本答申の意義を御
 理解いただく中で、コミュニ
 ティ組織・町内会等で必要な対
 策が講じられることを希望す
 る。また、行政における市民の
 生涯学習活動の推進と支援につ
 いては、生涯学習課のみでされ
 るのではなく、関係各課の連
 携を図る中で、全庁的な立場で
 の系統立った施策の展開がなさ
 れることを期待する。

◇答申を受けの改善策

(一部抜粋)

1 地区における高齢者の
 学習活動支援 (1) 地域の将来
 像の策定(①〜④)における高
 齢者の役割認識と、それを受け
 て地区が今後必要とする高齢者
 の学習、社会参加活動に要する
 経費の一部を助成。(2) 右記につ
 いては、平成11年度モデル事業
 として、全市5地域で各1館ずつ
 つ実施。(3) また全市の事業の一
 環としての出前講座も、必要に
 応じて導入。

II 全市の事業としてふさ
 わしい高齢者の学習・社会参
 加活動 (1) 趣味学習(省略)(2)
 '02から開始される新教育課程で
 「総合学習」が取り上げられる
 ので、地域の人材活用は避けて
 通れない問題ともなり、長期的
 視野に立った全市のな位置付け
 が必要。(3) 寿大学講座では、学
 習内容・方法に改善の余地有。
 (4) 全市の高齢者教室開設の場
 合、終了後の社会参加の在り方
 の明確化。

サークル交流

手作りはがきに絵を描く

きんもくせい

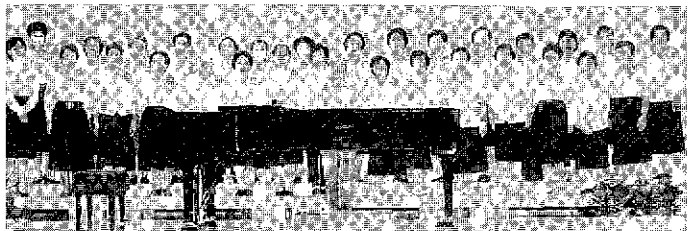
私達は「広報あらい」で絵手紙教室の募集で集まったサークルです。活動の日を金曜日と決め、名前もそこにちなんで「きんもくせい」とつけて公民館の施設を利用しての自主運営で活動して五年目になります。幸いにも仲間が紙漉きの技を指導してくださる方が居られたことで第三金曜日を紙漉き作業に当て、牛乳パックを漉いて再生はがきを作成し、そこに絵を描くことを教わっています。講師の先生以外全員女性です。野道の草花や、野菜など身近なものを両材に水彩、水墨、ペン画等で思い思いに作品づくりを励んでいます。そして、今までほんやり眺めていた草花について花びらの枚数や重なり具合など細かく観察する癖がついて参りました。中には労作のはがきをお見舞いの使者として入院患者さんの心のケアに尽して居られる方もいて、多くはプレゼントや時節の挨拶状に使って喜んでもらったりして次第に楽しみ方が

膨らんできました。さらに、秋に催される新井市生涯学習フェアに出品するようになってからは、はっきりした目標に良い刺激を受け、みんながんばって作品づくりを行っています。春と秋に野外で写生したり、ゆっくり親睦の食事を楽しまながら意見交換したりして、お互いに腕を磨きあっているサークルです。二月の第四金曜日はよく晴れたので予定を変更して妙高山の冬景色の写生に出かけてきました。麓に住んでいながら、初めて正面を向いて描きました。はがきにきれいに収まるといいのですが…。

(きんもくせい 宮下伸子 記)

楽しい時を過ごす
今が青春
与板町 サンコーラス

私達のサンコーラスは、設立当時のシルバークォーラスから数えて今年で十五年(平均年齢70?歳のグループです。)月に二回、幼い頃から口遊んだ懐かしい歌、心のどこかに残っているラジオ歌謡、日本、世界の抒情歌等を腹から声を出して繰り返し楽しく練習をします。指導者



の堀良作 先生のご好意と辛抱と強い情熱に引っぱり、昨午練習日が待遠しく、仲間の元気な顔に出逢い歌を唄い「ああ今日も幸せ」と満足して帰ります。又年一回私達の拙い練習成果を老人保健施設グリーンヒル与板のバンドの皆さんとコンサートを行うことも楽しみの一つです。外部の方たちからの「うまくなつたね」との声に励まされてまた一生懸命楽しい時を過ごし、繰り返し歌っている内にいつの間にかマスターして、その喜びを子や孫と共に歌いたいとみんな張り切っています。歌の好きな方、いつでもお出で下さい。いっしょに歌いましょう。これが私達の会です。

(サン・コーラス 吉川康子 記)

新発田市公民館

主事 海津智彰 さん

「アッキー」これが昨年四月に我が公民館に新採用で配属された彼の愛称である。年齢は二十三歳、職員の高齢化?が進みつつある当館にとっては非常に歓迎すべきことである。



では高齢者学級を開催しており、学級生から

二つと盆栽や山野草などの趣味関係の展示会を受け持っている。地区館

素顔拝見

見れば孫のような彼が、地元弁に四苦八苦しなから話をしていがある。さて、後回しになってしまつたが、彼には同僚が足元にも及ばない才能がある。その名はパソコン。今年度このパソコンの威力でどんなにか事業に趣向を凝らすことができただろうか。正に、アッキー様、様であった。これからも、パソコンと若い感性で公民館に新風を巻き起こしてくれることを期待している。

(新発田市公民館 小竹林和良 記)

加治川村生涯学習課

社会教育主事

高橋徳直 さん

公民館に配属になり、今年で八年目を迎える、大ベテランの社会教育主事。春、夏、秋はゴルフ、冬はスキーと年間を通してスポーツを愛する彼はガッチリタイプの子イイ男。最愛の妻とは大恋愛の末、結ばれ一男一女の父親としてPTA会長としても大活躍。目下平成八年度に策定された生涯学習推進プラン「さくらプラン」の推進体制づくりと事業の実施に向けて奮戦中



会の事務局を持ち、二市町村の調整役として平成十一年度の下越地区公民館役員等研修会の開催に向けてガンバっています。

気がやさしく力持ち、人が困っていると見てられない性格の「徳直さん」は、我が公民館にはなくてはならない存在です。これからも健康第一、仕事第二でがんばってネ!

(加治川村中央公民館 前田圭子 記)

恵贈資料紹介

佐和田町生涯学習推進計画

「潤いと活力のあるまちづくり」

「佐和田町生涯学習推進計画」が昨年十二月に、今回は「潤いと活力のあるまちづくり」が当会事務局に恵贈されました。

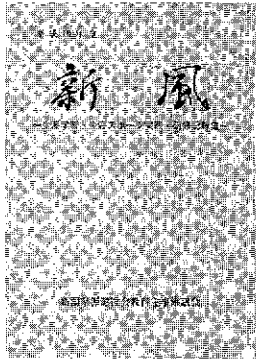
「佐和田町生涯学習推進計画」は、序論・基本構想・基本計画・年次計画で内容構成されており、内容の特徴として、生涯学習社会形成のため五つの柱からア

恵贈資料紹介

平成10年度『新風』

生涯学習、生涯スポーツ実践研修記録集

今年も、すばらしい実践記録を満載して『新風』が恵送されて参りました。今回は比較的時間のゆとりがありましたので、全編を精読させていただきました。



感銘／中越教育事務所前社教課長さんのお言葉に尽きますが、中越地区の学社融合への取組事例です。中でも津南町の実

践事例には、感銘と敬意を表する次第です。それは、一年次は先進地に学び二年次は実践という中で、学びと実践を併行し、3年間しかならないという構えで、思いっきり早めに対応している姿からです。まだまだ紹介したい事例は沢山ありますが、存在感の大きい派遣社教主事の皆さんに、今後ますますのご活躍を期待しております。

新潟県派遣社会教育主事協議会



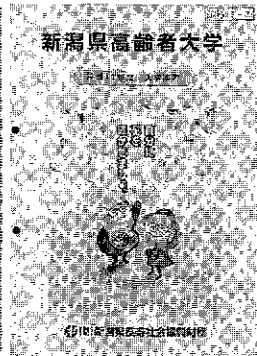
今回は「潤いと活力のあるまちづくり」ガイドブック保存版で具体的に歩み出された訳ですが、地道な美談が大いに期待されています。ご恵贈ありがとうございます。

佐和田町生涯学習推進本部

ではなく、一つという掛け合い的な意味とか。

また町民としてこの生涯学習社会の生き方として、さわやかに、わかわかしく、たのしくをモットーとしおるようです。

- （財）新潟県長寿社会振興財団で平成11年度の学生を募集！！
- 一、講座の種類・年限・授業数
 - 教養講座 2年制 29日間
 - 福祉ボランティア1年10日間
 - ワープロ講座 1年制10日間
 - 二、入学資格
 - 県内に居住し、60歳以上の人
 - 三、受講制限
 - 福祉ボランティア及びワープロ講座は、教養講座修了者を主に対象とする。
 - ワープロ講座の受講は、全くの初心者を対象とする。
 - 受講機会の均衡化のため一人一講座の受講とする。
- 三、申込期間
- 平成11年4月1日(木)から4月20日(火)まで(事務局必着)
- 四、申込み方法 問合せ先
- 詳しくは 新潟県高齢者大学事務局 Tel.〇二五―二八五―一四〇〇
 - または、各市町村役場高齢者福祉担当窓口まで
- あ と が き
- ◇ 人事異動の季節ですが、当会役員関係の方々にも訪れているようです。次号はその紹介になるかも知れません。
 - ◇ 第50回県大会の準備、中越公連事務局並びに現地大和町・六日町公民館を中心にして順調な滑り出しを見せておるようです。開催日繰り上げの関係で、大変ご苦勞を願っております。(鈴木 記)



表紙解説 『灯り』

2月20日・21日の両日にわたって冬まつりが開催され、「灯り」をテーマに「雪灯り廻廊」や地区公民館参加の勇壮な「タイムマツ競争」が行われました。(川口町公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
 〒951-8053
 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
 【TEL・FAX (025)224-6073】
 発行人 会長 今井昭友
 編集人 事務局長 鈴木友夫
 【定価1部150円 年共1,800円】